やまぼん

今年から8月11日は国民の祝日「山の日」です。日本は国土の多くの部分が山の国。登山が趣味の方もそうでない方も、本で日本や世界の山を訪れてみませんか？

『沙羅沙羅越え』
風野　真知雄著
KADOKAWA
Fカ
篠崎ほか所蔵

時は戦国時代。現代でも遭難者が絶えない厳冬期の北アルプス・立山連峰を踏破した戦国武将がいた。その名は、佐々成政（さっさ なりまさ）。一国の大名である彼が危険を冒してまで、なぜ決行したのか。そして何を得たのか。成政の凄まじい行動力に、ただただ脱帽しました。

『女子の山登り入門』
小林　千穂著
学研パブリッシング
786コ
篠崎ほか所蔵

山登りが初心者の女子でも楽しめるように、初歩的な知識や登り方、トラブルの対処法などを教えてくれます。また、かわいいウェア、グッズや、山での楽しみ方の紹介など、読むと山登りがしてみたくなる本です。

『山の名前っておもしろい！』
大武　美緒子著
実業之日本社
291オ
篠崎ほか所蔵

山名の由来は地形や地理条件のほか山肌に残る雪の形、伝説や信仰に基づくことが多いそうです。中には「面白山」「野口五郎岳」「貧乏山」など個性的な名前も。どんな山なのか気になります。皆さんもお気に入りの山名を見つけて登ってみませんか。

『白きたおやかな峰』
北　杜夫著
河出書房新社
BFキ
篠崎ほか所蔵

7000m超級の山ディランへの登頂に日本人遠征隊が挑む。始めは隊のドタバタぶりがユーモラスに描かれているが、高度が増すと物語の緊迫感は一気に高まる。気付くと、自分もベースキャンプにいるかのように、頂上を目指す隊員にエールを送っていた。

『北壁の死闘』
ボブ・ラングレー著
東京創元社
B933ラ
篠崎ほか所蔵

スイスにそびえ立つ山、アイガー。第二次大戦中、最悪の天候の中でその北壁に登頂を挑んだドイツ軍部隊がいた。登山シーンは吹雪の中で歩を進める隊員たちの震える指先をまざまざと想像できるほど真に迫り、圧巻です。ドラマチックな人間関係も魅力の一つです。

NO IMAGE

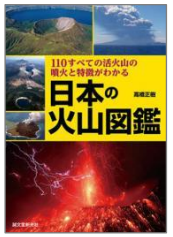
『自然を読み解く山歩き』
小泉　武栄著
JTBパブリッシング
454コ
篠崎ほか所蔵

※昨今、エコツアーが盛んだが、この本では、ただ単に名前を覚えて自然を理解するといったレベルから一歩踏み込み「不思議を発見する山歩き」を推奨している。例えば「なぜこの植物はここに生えているのか」等を考えるので、より山への理解が深まる事だろう。

※環境を乱さないで自然保護を意識した観光。

『空飛ぶ山岳救助隊』
羽根田　治著
山と溪谷社
B786ハ
篠崎所蔵

ヘリコプターでの山岳遭難救助の礎を築いたのは民間航空会社の一営業マンだった。“一秒でも早く遭難者を引き揚げ、待っている人たちの元へ送り届けたい”と、彼は誰よりも早く現場へ降り立ち、文字通り命を懸けて救助へ向かう。その使命感と情熱に頭が下がる。



『日本の火山図鑑』
高橋　正樹著
誠文堂新光社
453タ
篠崎ほか所蔵

日本に住む私たちにとって、火山は身近な存在です。この本は全国に110ある活火山の特徴や過去の噴火活動等が写真と共にひと目でわかるようになっています。温泉等の恵みをもたらす一方、噴火による災害も起こす火山。この機会に学んでみてはいかがでしょうか。